

<金標準、利下げを織り込み、「知ったら仕舞」に備える・・>



(出所：オアシス)

消費者物価指数（CPI）、生産者物価指数（PPI）を受け、17日のFOMCでは0.25%の利下げを確実視に見られ、週末の発表されたミシガン大消費者信頼感指数でも1年先のインフレ期待は4.8%と前回と変化はない。そのためFRBは2大責務であるインフレ抑制と完全雇用を考慮して、雇用に的を絞った政策を行って来る可能性が高まっている。特に30日フィラデル・ファンド・ファーチャーズでは、9月と12月の金利差は0.3%を示しており、年内2回の利下げを示唆しているが、モルガンスタンレーのアナリストは来年1月までの4回の利下げを予想している。スイスの銀行であるUBSは利下げに伴うFRBの金融緩和と米国ドル安、地政学的リスクを理由に金価格予測を2025年末までに3800ドルに、2026年半ばまで3900ドルに上方修正している。ただ金標準先物はFOMCの利下げを織り込む値動きを続け、既に0.25%の利下げは織り込む済みであり、17400円以上で戻りが止まっている。そのためFOMCを機に利食いに抑えられた値動きに注意が必要に思える。

<テクニカル>

金標準先物の日足のMACDでは、MACDの上昇が止まり、シグナルは上昇している。RCIは短期が100%で維持し、長期も上昇している。特に日足が指標平滑移動平均線を超えるも指標平滑移動平均線の伸びが収まり、高値追いが止まる可能性が高いと思われる。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に關し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取 1,955,000 円(2025 年 9 月 16 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 81,840 円(2025 年 9 月 16 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>